

<b>授業科目</b>  実践看護学特論Ⅱ	<b>科目概要・形式</b>  2単位 30時間( コマ) 講義科目	<b>配当年次</b>  博士前期1年次 後期開講	<b>オンライン参加</b>  <input type="checkbox"/> ・不可 (下記6, 7参照)
<b>科目責任者</b>	清水 健史		
<b>担当者</b>	清水 健史、出貝 裕子、鳴井 ひろみ、小野 恵子、小池 祥太郎、谷川 涼子、蝦名 智子		
<b>1. 科目のねらい・目標</b> 臨床看護の対象となる患者(療養者)・家族が抱える問題に対して包括的な支援を提供できるための援助方法を探求する。			
<b>2. 授業計画・内容</b> ＊この科目は選択した科目担当者が担当します。 <b>【清水 健史】</b> 精神科領域での看護援助に求められる、カウンセリング技法、援助的コミュニケーション、グループアプローチの理論を学び、効果的な精神看護の介入方法を探究する。 <b>【出貝 裕子】</b> 高齢者の複雑な健康障害及び生活機能を捉える能力を習得する。その上で、目標志向に立脚し療養の場の特性に応じた包括的な援助の展開方法を探究する。 <b>【鳴井 ひろみ】</b> がん患者の複雑な健康問題に対して包括的な支援を提供できるための援助方法を探究する。診断・治療の原理を基に、がんの予防、早期発見、病名・予後告知、治療の選択、治療過程(End of Life Care まで)に伴う患者・家族の反応に適切に対処できるための援助方法を探究する。 <b>【小野 恵子】</b> 在宅療養者・家族が抱える問題に対し、包括的な支援を提供できるための在宅看護におけるケアアセスメントの過程・展開・評価について探求し、ケアの質を高めるための在宅ケアのアウトカム評価の思考を養う。 <b>【小池 祥太郎】</b> 看護技術書に記載されている看護技術や臨床で実践されている看護技術の目的および効果について探求し、安全・安楽な側面から看護技術に対するクリティカルシンキング能力を養う。 <b>【谷川 涼子】</b> 小児看護における諸事例について倫理的・臨床的判断に基づいた看護介入するための方法を探求し、他職種と協働した看護ケアを提供するための専門的能力を学ぶ。 <b>【蝦名 智子】</b> 周産期にある女性とその家族が抱える身体的および心理・社会・発達的問題に対して包括的な支援を提供できるための援助方法を探求する。			
<b>3. 教科書、参考書</b>			
特に教科書は指定しない。各教員が資料を配布または講義中に紹介する。			
<b>4. 成績評価方法</b> 「レポート 30%」「プレゼンテーション 40%」「授業への取り組み 30%」で評価する。			
<b>5. 受講要件</b> なし。			
<b>6. 社会人学生に対する配慮</b>			

夜間開講を基本とするが、受講生と相談の上履修時間を調整する。  
Web ラーニング対応可能。

#### 7. その他

オンライン授業の場合は、Zoom あるいは Webex を使用する。